

**あいおいニッセイ同和損保と東京大学、
テレマティクス技術の活用による CO2 削減に向け共同研究を開始**

2022年5月10日

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：新納 啓介、以下「あいおいニッセイ同和損保」）と、国立大学法人東京大学大学院工学系研究科（研究科長：染谷隆夫、以下「東京大学」）は、テレマティクス技術の活用によるカーボンニュートラルの促進に向けた共同研究を4月から本格的に開始しました。

1. 背景

世界的にカーボンニュートラルの潮流が加速する中、日本のカーボンニュートラル達成に向けた取り組みは、大企業を中心とした事業者や地方公共団体等の組織が主体となって進んでいます。一方で、真の脱炭素社会を実現するには、企業だけではなく、生活者一人ひとりの温室効果ガス削減活動を積み上げることも重要です。

そこで、テレマティクス技術に関するノウハウを持つあいおいニッセイ同和損保と環境領域の知見・分析技術を持つ東京大学は、生活者一人ひとりの活動の中でも「自動車由来の排出 CO2 の削減」に着目し、テレマティクス技術によって得られる自動車の走行データを活用し、生活者一人ひとりの運転による排出 CO2 の削減取組みを促進し、日本のカーボンニュートラルの達成へ貢献することを目指し、共同研究を開始しました。

2. 共同研究の概要

- あいおいニッセイ同和損保のテレマティクス技術によって得られる自動車の走行データと東京大学が持つ分析技術を用いて、当該自動車の運転による CO2 排出量の算定及び安全運転との相関性の研究を行います。
- CO2 排出量の算定に加え、排出 CO2 の少ない運転が生み出す取引可能な環境価値を算定し、運転者へ対価を還元することで、より一層の CO2 削減運転を促進する仕組み作りを研究します。
- 上記1および2による成果を事業者や地方公共団体との共同取組みに生かすことにより、事業者や地方公共団体の CO2 削減に資することを目指します。
- テレマティクス技術によって得られる自動車走行データを用いて、V2G (Vehicle to Grid[※]) 等、電気自動車のエネルギーサービスへの展開に関する基礎的研究を行います。

※Vehicle to Grid: EV を動く蓄電池とみなし、電力網との相互転送を可能とする技術



3. 今後の展開

あいおいニッセイ同和損保と東京大学は、本共同研究を通じて、自動車領域のカーボンニュートラルの促進に貢献すると共に、地球環境課題に対するテレマティクス技術の価値向上を目指します。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
広報部 広報室
課長補佐 江頭 悠介
東京大学大学院工学系研究科
広報室

あいおいニッセイ同和損保は、「特色ある個性豊かな会社の確立」を掲げ、行動指針である「地域密着」を追求するとともに、お客さま・地域・社会とともにリスクを削減し、社会・地域課題解決に資する商品・サービスをご提供しております。この考え方・コンセプトを「CSV×DX」（シーエスブイ バイ デイエックス）というキーワードのもと展開し、幅広い商品・サービスで実現していきます。

